

エジプト：成功の兆しと展望

駐日エジプト・アラブ共和国大使

ワリード M アブデルナーセル博士

Dr. Walid M. Abdelnasser



まず初めに、本稿を寄稿する機会を頂いたことに感謝いたします。

エジプト経済は、2004年後半以降、大幅な経済改革を推し進めたことで、持続的成長と改善を遂げつつあります。経済成長率は2005年の5.7%から2007年に7.1%に、2008年には過去15年間で最高の7.3%になると期待され、2006/07年度の経常収支はGDP比2.1%の27億ドルの黒字でした。

世界銀行と国際金融公社の報告書「Doing Business 2008」で、エジプトはビジネス環境の改善度合いがトップの国に位置づけられ、外国直接投資の流入額は、2003年の4億700万ドルから2005年に61億ドル、2007年には111億ドルへと急増しています。UNCTADの「世界投資報告書2007」では、アフリカにおけるトップの直接投資流入先となりました。

金融セクターの健全性と効率性の向上を目的とした銀行部門の改革も始まっています。税制改革も実施され、個人所得税・法人税率が2005年7月に50%から20%に、平均関税率が2007年2月に14.6%から6.9%にそれぞれ引き下げられました。

エジプトには人口7500万人以上の国内市場があり、加えて東南部アフリカ共同市場 (COMESA)、大アラブ自由貿易地域 (GAFTA) に加盟、EUパートナーシップ協定、資格産業区域制度、トルコとの自由貿易協定など多くの2国間貿易協定や地域貿易協定を締結しているため、エジプトを拠点として近隣諸国の市場へのアクセスも容易です。

エジプトと日本の経済関係は、近年、急速に拡大し、2007年の2国間の貿易量は前年比38%増の21億2000万ドルでした。エジプトからの輸出は8億3500万ドルで前年比110%増でした。エジプトからの輸出品目は、LNG (液化天然ガス)、アルミニウム合金、綿、ジャム、カーペット、冷凍・乾燥野菜、セラミックタイル等の完成品や原料で、日本からエジプトへの投資額は約5億ドルに達しました。エジプトには、石油化学、通信IT、建材、バイオ燃料、太陽エネルギーや風力を利用した再生可能エネルギー、海運、肥料、自動車部品、繊維、食品加工等、多岐の分野にビジネスチャンスがあります。

2007年、両国間の関係をより強固にする出来事として、5月に安倍前首相と日本経団連の経済ミッションのエジプト訪問、11月にアレクサンドリアで第1回アラブ日本会議の開催がありました。こうした動きは、戦略的パートナーとして、中東とアフリカのハブやアラブ世界とアフリカへの玄関口として、エジプトの重要性を日本が認識していることの表れだと思えます。また、共同で大エジプト博物館、エジプト・日本科学技術大学等多くの重要なプロジェクトに取り組み、さらなるパートナーシップの拡大・深化に関心をもっています。先月の投資大臣訪日に続き、近々、より親密な協力関係や2国間の親善・友好の促進方法を探るため、大臣や高官の訪日を予定しています。今後、両国の関係がもっと緊密化することを期待しています。